

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	現在検討中	スタッフ、ご家族、地域住民の方々と、運営推進会議を進め、今後検討していく予定。
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	現在、理念はあるが、地域に根ざした理念を目指し検討中である。	同上
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域行事に積極的に参加し、グループホームとして少しずつ認識されてきている。理念の浸透については、まだまだかだいがある。	町内会、お祭り、老人会集い、町内清掃、親睦会等に参加させていただいている。又、運営推進会議を通して、浸透を図る。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃からの雪はねや畑での活動を通し、自然に声を掛けてくださる。又、畑で取れたもののやり取りなどがかかわりが続いている。	除雪、畑作業、ごみ捨て、町内清掃を通し、気軽に挨拶が出来るよう努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会、老人会、行事等、地域の活動に積極的に参加し少しずつ根付き始めている。	近隣の行事に地域からのお誘いもあり、参加しているが、受け入れ態勢は、まだ課題も多く今後の働きかけが必要。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通して地域の貢献を検討しているが基盤づくりにはまだ至っていない。	ホーム内会議、運営推進会議をおこなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価・外部評価を通し、客観的にホーム全体を見直すことが出来、ケアに活かされている。</p>	<p>会議の中で評価内容を話し合い評価されたところは伸ばし、改善点については一つ一つ見直し行っている。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回とはなかなか行えなかったが、これまで4回の会議を通してホームの状況を知っていただき、その上で参加者を交え意見をサービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議でホームの状況報告を行っている。(ホーム概要・食事について・認知症について・救急講習など)</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>研修などは受けているが、市町村をとの連携を深めるまでにはまだ、不十分な点もある。</p>	<p>地域包括支援センター及び市の関係部署とも連携を少しずつとれてきているが、これからも今まで以上に連携が取れるよう努める。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修や直接裁判所などで何度か学ぶ機会があったが、ホームとして個々で話し合い活用できるまでにはいっていない。</p>	<p>外部研修への参加ほか、ホーム内での学習の場をもうける。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修に参加し、ホーム内でも話し合い虐待防止に取り組んでいる。また、運営推進会議内でも報告を行っている。</p>	<p>外部研修やホーム内研修、スタッフ同士での話し合い、運営推進会議内での報告等を行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所の契約時において料金の内訳や、重要事項説明書を説明し、質問や疑問・不安を聞いた上で契約していただいている。</p>	<p>左記の内容と同上</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームでは苦情窓口を設け、外部(警察・包括支援センター・岩見沢市健康福祉部・国民健康保険団体連合会)にも相談することが出来る環境作りが出来ている。		外部との情報交換
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に日々の状況報告、担当者からの毎月1回の近況報告の手紙、みやこ便り(毎月の広報)、急変時の電話報告など		左記の内容の継続。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の偏り意見や苦情が自然な形でお話できるよう関係作りを日頃から行っており、ご家族からの意見等が言えるようになっている。又、ホーム以外の第三者機関の紹介も契約書などで行っている。		面会時のお話・運営推進会議などでの意見交換・第三者機関の紹介
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のホーム内会議で職員から意見・提案を聞く機会を設けている。又、状況に応じ個別での意見などを聞く時間を設けている。		提案・意見等早急に改善できることについては、その都度行うようにしている。又、ホーム内での会議で検討し反映させている場合もある。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は常に連絡が取れるよう体制を整えている。状況の変化でその都度勤務調整・指示を行っている。		今後も継続し、柔軟な対応に努める。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最低限に押さえられるように日々、職員と話し、日頃の不安や不満などを聞くよう努めている。又、職員の変化に気をつけ、こちらから話しやすい雰囲気作りを努めることにより未然に離職を防ぐことにつながっている。		個々の職員との話し合いの中で最善の案を見出している。離職する場合でも猶予をもってもらうことで、利用者さんに対する変化を最小限に抑えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務年数や経験に応じて、外部研修に参加し、ホーム内でもその研修内容の報告し、ケアに活かしている。		今まで以上に個別的な要望のある研修への参加やホームない状況に応じた内容の研修の参加。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修を通じ空知管内の勉強会にも参加、ネットワーク作りや情報交換に役立っている。又、認知症ケアネットワークを他グループホームと連合して行っている。		空知管内に限らず、研修・勉強会を通してネットワーク作りに努めて生きたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	事業所では特にストレスの解消についての取り組みは行っていないが、不満や悩みについての相談は随時聞いている。職員間での親睦、研修を通じての交流を図り、ストレスの解消につながっている。		外部・他業種を交え交流を行い、ストレスや悩み等の解消を図りたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	外部研修を通して視野を広め、モチベーションの向上に努めている。		個々の目標設定・評価・目標への助言を行っている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	基本的に本人からではなく、ご家族や関係機関(病院、ケアマネージャーなど)からの相談、紹介が多く、ご本人からの訴えは少ないがご本人と面談した上で「顔を知っている」という関係作りのなかで、ご本人の気持ちを少しでも引き出せるよう努めている。		入所前の面談を状況に合わせて行っている。その中で、ご本人の生活状況やご本人とお話が出来る機会を作っている。
24 初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族に対しては、キーパーソンだけではなく、他のご家族の意見のお聞きした上で、どのような思いを持っているかをお聞きし利用にあたって不安なことがない様に、かつ利用者さんにとって望ましい生活を送ることが出来る様努めている。		事前面談(キーパーソンの方や、他のご家族の方にもお話を聞いている。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前にご家族と面談、ご本人との面談、ご本人が利用しているサービス関係者(ケアマネージャー、ヘルパーさんなど)らとの面談を行い、ご本人・ご家族が求めているニーズを見極め、状況に即した支援が出来る様努めている。		同左記にある対応を継続し今後共、その方にあった支援を初期段階から行えるよう努める。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	上記と重なるが、ご本人とご家族との面談を通し、まず顔を知っているという関係作りを行う。状況に応じて、ホームの見学を行う(何度かこられることもある。)		ホームの状況に応じ、左記のことも取り組むことが出来ないか検討していく。(入所を検討している方に行事などにお誘いするなど)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事活動(食事作り、買い物、掃除など)を一緒に行うことで、利用者さんに教えていただくことも多く、支えあいながら生活できている。(一方的な関係でなく)家事活動に参加できなくても、一緒に食べたり、テレビを見たりする中で、楽しみなども共有しあうことが出来ている。		同左記にて書かれたことを継続していくだけではなく、常に「共に生活していく」方々であるということを認識しケアに努める。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者さんの置かれている状況を理解していただけるよう情報(手紙や・面会時のお話)をお互いに共有し、一緒に利用者さんを支える立場として関係を築けて行ける様努める。		情報の共有を図り、利用者さんを一緒に支えるという共通認識が持てるよう努める。又、気軽に相談や意見が言い出せるような関係作りを努める。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者さんとご家族の関係を認識した上で、ご本人の状況をお知らせしている。(手紙・面会時)又、面会時の関りの中で、状況によりスタッフがクッション役になり関係作りの支援に努めている。ホームの生活のみではなく、外出・外泊への働きかけもしている。		入所前のアセスメント・月1回の担当者からの手紙・面会時のお話による情報提供・行事等へのお誘い・外出・外泊の働きかけなど
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が生活してきたことをホームに入所したからと言って切り離すわけではなく、できる限りの状況で、関係の継続を支援している。		住んでいた地域で利用していた所へ行くこと(美容室・病院・知人宅)とその関係者との関りを大切にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員達で個々の性格や特徴を知るよう努め、利用者さん同士での関るきっかけ作りや、関係構築のお手伝いを日々の生活の中で自然に行っている。		日中の中で利用者さん同士が関わっている場合は、内容の把握をそれとなく行い、職員が間に入らなければいけないときは話に加わるよう努めている。又、孤立しがちな方を中心に話をする雰囲気作りにも努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了に当たっても、その後の方向性をご本人・ご家族・他関係機関と協力し話し合っている。		サービスを終了された方の病院や他施設の紹介・相談を行っている。又利用者さんの面会などいきなり問うホームとの関係を断ち切らないよう努めている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりを知ること努め、その上で日々利用者さんと関り希望や意向を把握するよう努めている。困難な場合はご家族などからご本人の興味・好みなどを聞き本人本位に検討している。		入所以前の情報をご本人・ご家族などから頂きその方を知る。又日々の生活の中からご本人の意向や希望を聞き実現に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時、ご本人・ご家族・関係機関から生活歴やできるだけ馴染みのもの、習慣を教えていただき、今までの暮らしの継続に勤めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別ケアプラン・ケース記録・生活経過表・ホーム内会議などを行い、総合的に利用者さんの日々の現状の把握に努めている。		個別のケアプラン・ケース記録・生活経過表を持ち合わせ一日一日の利用者さんの現状把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な管理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアスタッフでの担当会議は、3ヶ月に1回くらいは行っている。又、医師・家族の参加は難しく特に変わりがなかった場合は情報提供や相談は随時行い作成している。		ご本人・ご家族・必要関係者との話し合いは今後必要であり、検討事項である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行うだけでなく、利用者さんを取り巻く状況(ADL・病状の変化・生活環境・心理的变化など)に応じ随時変更をかけ、そのときに応じた計画を作成している。		介護計画に基づいたケアを行いつつ、日々の変化(ケース記録・スタッフ日誌)に応じ、その時の状況に合わせた計画作成を今後とも行っていく。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケース記録に利用者さんの状況を克明に記録しそれ以外にも、気づいたことなどは、スタッフ日誌に残し、朝のミーティングや職員会議などで検討している。		ケース記録・スタッフ日誌の活用。(ケース記録については、その方にあった記録用紙に変更することもある。)又、朝のミーティングや会議での話し合いを行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としては、できるだけご本人やご家族の要望に応じた対応(個別的な日帰り温泉での遠出、入院中のかかわり等。)に取り組んでいるが、体制基盤は、完全ではない。		現サービスを維持しつつ、ショートステイなどのほかの機能を活かせるかどうか検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	個々の利用者さんのニーズに合わせて、協力していただき支援に活用している。(利用者さんの外部相談先として民生委員の方や、警察の協力を得たり、趣味等に合わせた地域サークルにも参加させていただいている。)		現状を維持しつつ、関係機関(警察、消防署、民生委員さんなど)とより密に情報交換し協働体制を構築していく。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状では、外部のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用することはない。退去を希望される方に対してのほかのサービスの活用支援の際は、地域のケアマネジャーやサービス事業者と話し合うことは多い。		今後は、他のサービスが活用できるかを検討すると共に地域のケアマネジャーやサービス事業者との情報交換の場を持つていく。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状においては地域包括支援センターとの協働はあまりない。		今後利用者さんのニーズに合わせて、長期的展望も含め、地域包括支援センターと協働していけるようより密に情報交換をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関のかかりつけ医や看護師の方々の協力の下、日常的な健康相談から急変時の対応まで相談できる体制が整っている。		今後も協力医療機関と連携を図りつつ、密な情報提供を行い、協力体制の強化に努める。又利用者の詳細な情報をあいて医療機関にすぐ提供できるように日頃から準備しておく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医等との連携はまだ取れておらず、現在は診断の際に専門医を薦めるなど徐々にではあるが、関係の構築に努めている。又現在協力医の協力の下認知症に関する治療などご本人の状況を伝えながら行ってもらっている。		今後、専門医との関係構築に努めより専門的な意見交換・相談が出来るような環境作りを行う。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としては看護職の雇用はしていないがケアスタッフの中に知識がある者がおり、今日協力医療機関との協力の下、ケアスタッフも含め日常的な健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の医療機関、協力医、ご家族と相談しつつ、利用者さんにとって出来るだけ安心していただけるよう、ご本人の情報提供を行っている。又退院後の受け入れなどについても、関係機関やご家族と相談した上で、ケアスタッフ会議を開き受け入れ態勢を整えている。		今後共に迅速に情報提供できるよう関係機関との話し合いを持ち、早期退院できるよう対応するよう努める。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者ご本人の希望・要望を聞き、又ご家族の方々の意向なども組み入れた上で方向性を決め、スタッフ全員で共有に努めている。ご本人の状態・意向の変化に合わせ、ご家族と共に話し合いを行っている。		今後ホームの利用者さんが重度化していく中で、利用者さんの希望・要望について、今まで以上に細かく教えていただく。又ご家族との連携の強化を図る。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者ご本人の希望・要望に出来るだけ実現できるよう事業所で話し合う機会をもうけ、関係機関の協力も求めつつチームとして支援を行い、今後のへ変化についても見当、準備を行っていく。		事業所内での「出来ること・出来ないこと」の見極めを今後共に行っていく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入院時や他の施設入所の際は、相談委員等への事前に情報提供を行い、混乱の少ないように努めている。又、当事業所への入所時モインテークを行っている。		ダメージの少ないように情報提供を継続していく。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとり個々に合わせたプライバシーの確保、言葉掛けを行うようにしている。又、記録等の情報については、関係機関に求めた場合のみご本人・ご家族の了承を得ておこなっている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の趣味・趣向から始まり生活層に至るまで、利用者さんを知ることに努め、今現在のご本人の状態を把握した上で、一人ひとりに合わせた話がけ、姿勢の工夫を行っている。その上で、自分自身でできることだけ決定していただき、暮らしていただいている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者自身が決定者であり、その人らしい生活が出来るよう、そのお手伝いを行っている。自分で出来ることを活かし、出来ないことは少しお手伝いし、『その人』自身がその人らしくあれるよう声掛け対応を行っている。		一人ひとりの希望にあわせた対応(外食・ドライブ・温泉・知人のところへが外出など)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は、利用者さんが通っていたところを極力行けるようにしている。外出困難な方は、ホームにいつも馴染みの美容師さんに来てもらい行っている。また、ご家族から情報を聞き(どのようなおしゃれを好んでいたか)日々の生活に取り入れている。		お化粧品・マニキュア等の実施(好まれる方に)や着るものの工夫、理美容室は、行きつけのお店に外出する。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	盛り付けの工夫(色取りを良くする、飾りつけをする、食器と食材の色のバランスなど)をしたり、旬のものを取り入れる。又、利用者さんと買い物や食事作り、一緒に食べることで食事を楽しめるよう取り組んでいる。		今後、テーブルクロスや食器なども工夫していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者さんが好むこと望むことを状況(病状や安全管理)に合わせて対応している。おやつも好みのものを買ったりしている。現在喫煙者2名晩酌する方1名おられ、体調や火の始末(喫煙場所の指定など)に配慮しつつ楽しんで頂ける様支援している		現状のサービスを維持しつつ利用者さんのニーズに合った支援を行っていく
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを活かしその人その人に合わせた排泄支援を行っている		夜間帯はその人の状況により睡眠を重視するのかどうかを考慮しながら対応していることが多くなっている。尿意があり自力で排尿しようとしている力が残っている人も多いので出来る限りその人のペースに合った支援を行っていく
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の意向を尊重しつつ、曜日・時間帯は決めずいつでも入浴できる環境づくりをしている。又入浴剤や音楽をかけるなどの工夫を行っている。スタッフからいつでも入れるよう声掛けを行っている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	1日の生活リズムを一人ひとりにあわせ整えることで安心して安定した休息、睡眠が取れる様援助、働きかけを行っている。寝つきが良くない人には話を聞くなどの不安解消を行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	気晴らしについては一人ひとりに合わせた方法(買い物、温泉、山菜取りに行くなどの外出、歌を聴いて一緒に歌うなど)をとっている。その方その方一人ひとりの生活暦、残存能力を活かすことで家事活動や趣味などに参加し「自分がまだ出来るんだ」「役に立っているんだ」ということを感じ自信回復や生活の張り合いにつながるような取り組みを行っている		生活歴などを知ることでこの日とこれができるのでは？等推測し、参加しやすいような場を提供したり、声掛けすることで自発的に参加したり行動することが少しずつ多くなってきている。(家事活動、タイヤ交換、雪投げなど)それにより自信回復、役割意識にもつながり生活の張り合いにもなってきているので今後とも継続していく
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	「与えられる」のではなく「自分で好きなもの、欲しいものを買う」ということを楽しみ、そしてそれが「自分らしさ」を表現する要素であると考えており「買い物をする」の重要性を認識している		お金を自己管理できる方については高額ではないが手元において管理して頂いている。それ以外にも近所のお店にお金を持って自力で買い物に行く人もいる。(タバコやお菓子など好きなものを買っている) 普段はお金をホームに預けている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日頃から買い物外出やドライブ、散歩など気軽に外出できる機会を作り一人ひとりの希望に合わせた支援を行っている		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者さんの希望に沿えるよう努めており、又ご家族とだけでも過ごせる時間作りを支援している		定期的な知人・親類の所への送迎 / 自宅への送迎 / 買い物の付き添い / 知人宅への送迎
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話機はいつでも電話をかけられるように誰でも手の届くところに配置している。(使いにくいのでかける際は介助)電話や手紙を書く際の準備、お手伝いを出来るよう支援している		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもご家族、知人の方々が来ていただけるようお伝えしており、ホームにいらした際にはゆっくり過ごしていただけるよう場所を設けたりしている		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修に年一度参加しておりホーム内でも職員を対象に勉強を行っている		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵を一切かけず、夜間利用者さんが就寝した後、防犯のため施錠している。又居室には鍵は付いておらず鍵をかけないケアの取り組みを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中小まめな訪室やリビングへの誘導をし、職員が連携を取りながら安全の確保、所在の確認を行っている。夜間は定期的に巡回し、又物音や変化にも即対応している		現在の対応方法で継続
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の対応は行っているが全体的には危険な場所(階段、段差も含む)も多い		現在トイレ、階段、廊下などに手すりがあり階段には滑り止めが付いている(利用者さんの状況に合わせて)
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年2回防火訓練を実施/スタッフ全員が救命講習に参加/転倒・窒息・誤薬についてはマニュアルにて対応		今後も継続し取り組んでいく
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ全員が今年度救命講習に参加、初期の対応に備えている。又緊急マニュアルにて対応		緊急マニュアルの他、職員が早急に判断できるよう訓練や勉強会を実施していきたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議において近隣の方々に協力をお願いしている。利用者を含め防火訓練を実施。		さらに近隣の方々と交流を深め、グループホームに対する認識を深めて頂き協力を仰いでいきたい
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入所時リスクについて説明するも利用者の状態変化に伴い、リスクも変わってくる。今後家族とも話し合い説明しながら行う必要がある		入所時以外にも常に家族とリスクについて説明していく必要がある
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変について救急マニュアルを作成し迅速な対応が出来るよう配慮している。朝・夕の申し送りでの口頭での伝達、スタッフ日誌の活用により対応に結び付けている		より一人ひとりの疾患についての理解を深め、急変について予測し、早急な対応に当たることができるよう努める
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報書(薬局からのお知らせ等)が閲覧できるように綴ってある。副作用、用法、用量については処方書が変更時スタッフ日誌に掲載し、スタッフが周知している		一人ひとりの疾患についてより理解を深め、薬の副作用についても常に認識し、早急に対応できるように取り組む必要があると思われる
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防については食べ物、飲み物等での工夫を献立に取り入れている。又水分摂取量のチェックを行い、配慮している。腹部マッサージも取り入れている		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に合わせた口腔ケアの取り組みを行っているが毎食後の口腔ケアには至らず、今後導入の必要性は感じられる		口腔ケアに関する物品の更なる導入、毎食後の口腔ケアの支援
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量をチェック表(当ホームでは「生活経過表」という書類を使用)に毎日記入し、把握している。栄養バランスも考えながら献立作りをしているが栄養士の導入は必要と思われる		栄養士からのアドバイス、助言をもらう
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に1度感染予防の講習会に参加している。又マニュアルを作成し対処している。予防接種も実施している。インフルエンザ予防接種・・・年一回職員、利用者全員が対象ノ肺炎球菌に対する予防接種・・・希望者のみ。現在4名接種済。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の鮮度については毎日冷蔵庫内を確認するようにしている。又買い物(3,4日に一度)の度に冷蔵庫内を整理している。ノ調理器具、台所の衛生管理については小まめな洗浄・清掃と共にごみなどの処理も小まめに行っているが不十分な面もある		台所には利用者さんも立たれるのでその方々にも配慮しつつ衛生管理に努める(キッチンペーパーを使用しての手拭き、消毒液の使用など)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	冬以外は玄関前などに花のプランターを置いたりベンチを置いたり工夫はしているがもう少し改善が必要と思われる。		これまで通りプランターやベンチを置くことと共に、周囲の方々が近くを通った際に楽しめるような飾り付けも必要と思われる。また運営推進会議などでも意見をお聞きし、工夫に取り組んでいく
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	「ケアの場所」ではなく「生活の場」であることを常に心がけ、不快な音や臭い・光がないかどうか配慮し、対応している。(落ち着いたBGMを流すなど)		静かなBGMや利用者さんが好むような曲をかける/光については夏の場合、すだれを設置することもある/音については大きな音を立てない様足音などにも配慮している
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ハード的に死角が多いことを利用し、廊下(主に1階)に2,3個椅子を置き利用者さん同士で過ごすことができる場所を作っている		居場所を提供するだけではなく、そこが少しでも居心地の良い場所であるようクッションを置いたり、小さい人形を置くなどちょっとした工夫を利用者さんと相談しながら行っていく
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は各個人が使い慣れたもの(家具、食器など)を入所時に持ってきていただいている。また入居後、本人の好みのものを一緒に選び、買い足すことも多い。		少しでもご本人にとって居心地の良い場所であるようご本人、ご家族とも相談し工夫していく
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	喫煙する方もおられ、又猫などもいるので空気清浄機などを使用し空調には配慮している。また湿度・温度計を見ながら利用者さんに合った調整(換気、加湿等)を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	古い2階建ての建物で身体機能に合わせた環境づくりは困難であるが手すりや補助具の工夫で自立が出来るよう援助している		環境づくりは難しく困難な部分も多い。補助具の工夫等で援助している

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の力を引き出すことが出来るよう、作業時にスタッフがモニタリングし混乱の少ないように対応している。また失敗をしても次回へ向けての力を引き出すことが出来るようにフォローしながら見守りを行っている		今後も継続し取り組んでいく
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑作業をしたり、玄関先のスペースを利用したのバーベキューなど楽しみを持てるようにしている。また窓から見える庭には花を植えホームの中からも楽しむことが出来る環境づくりを行っている		今後もプランター作りや庭の手入れを継続していく。実際に活動に参加できる人だけでなく、身体的な面で参加できない人やご家族にもきれいな庭や花を見たり、花の匂いをかいだりするなどして楽しんでいただけるように取り組んでいきたい。またベンチなども活用し屋外での有効な活用方法を増やしていきたい(単なる休憩道具ではなく)

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>外出の意向等は実現可能なものについては早急に対応している。又以前から住み慣れた場所、なじみの場所(これまで通っていた病院やスーパー等の外出先、墓参りなど)に行ける様配慮している</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>利用者さんと一緒にゆっくりと食事をしたり入浴をする等できるだけ個別の時間を取り、対応している</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>例えば入浴等で自力で出来ることを尊重し、1人の入浴時間が1時間以上要することもある。食事を自力で摂取できる人であれば食事が用意できたことの声掛けはするが利用者さんの好きな時間に食事が出来ることができる</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者さんが一人ひとりのペースで生活できるよう支援しており、その中でその人らしくホームで生活されている。又利用者さんとスタッフとの人間関係作りの中で「一人の人」として互いに尊重している</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>出来るだけ一人ひとりの希望に合った外出等(散歩、買い物、通院、理美容、ドライブ、知人の所etc.)をかなえられるように支援している。希望をなかなか伝えられない人についての対応が課題であり、そういう方に対しての外出の機会も行うことが出来る様心がけているが工夫が必要と思われる</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者さん一人ひとりの日常的な状態把握に努め、少しの変化や異常も見落とさぬよう記録などに残し、変化があれば早めに協力医に相談し、指示をいただいたり受診できる体制をとっている</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>要望によってはすぐに行動に移すことが難しいものもあり後日に対応することがあるが一人ひとりの要望は出来るだけすぐに対応するようにし本人の気持ちや思いを大切に安心して暮らしていただけるよう努めている</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>日頃からご家族の方々からお話を聞き、色々なことの相談を受けているなかなか連絡がつきにくい方や来訪できない方々とはお話しする機会が少ないので電話やお手紙などで利用者さんの近況やホームでの状況を伝えるよう日頃から努めている</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>住み慣れた地域との交流やつながりを大切にしようと思いなれた病院、趣味の場、地域との交流を行っているが頻度は少なく、今後の課題としてホーム全体として開かれていかなければいけない</p>



. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議を行う中でホームと地域だけではなく家族の方々との関係作りや意見交換が活発になり利用者さんにとっても地域の中でも理解者が増えてきているように感じる。その中で利用者さんの生活に広がりが出てきていると思われる
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員は利用者さんと関わり色々な思いの中でその人の「人生」を支える力になると日々努力している。だがそれ以上に「人と人のつながり」を「楽しみ」、「考え」、「一緒に人生を過ごしている」中で生き生きとしている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	まだまだ利用者さんにとって満足できるサービスを提供しているとはいえないが一人の利用者さんにとってどうしたら満足していただけるかを日々考え、実現に向けて職員、利用者さんも一緒に取り組んでいる
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	満足していただいている方も居るがまだまだサービスの向上を希望している方必要な方もいらっしゃるの今後とも満足していただけるよう努めていく

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは家庭的な雰囲気の中で利用者さん・スタッフが一緒に過ごし、「楽しみ」「悩み」「喜び」を一緒に分かち合っている場所であると思います。利用されている方が「その人らしく在る」ということを目標に日々努めています